

こたえ 漁夫の利

はってん
発展 ①

漁夫の利

(中国の古い話)

昔、中国で、趙という国が、燕という国をせめようとしていました。それを知った燕の国使いが、趙の王様に会いに行き、こんな話をしました。

「ここへ来るとちゅう、川岸で、大きな貝が口を開けて、日なたぼっこをしています。そこへ、しぎという鳥が飛んできて、貝の身をつきました。貝は、すぐに口をとじて、しぎのくちばしをはさみました。」

しぎが『このまま雨がふらなければ、おまえはひからびてしまうぞ。』と言うと、貝は『くちばしをはさなければ、おまえこそ死んでしまうぞ。』と言い返しました。どちらもゆずらずに争っていると、そこへ漁師が通りかかり、貝もしぎも、両方ともつかまえてしまったのです。

今、趙と燕が争えば、両方の国がつかれはて、強い国の秦が、両方を手に入れてしまうでしょう。」

趙の王様はなるほどと思い、燕をせめるのをやめました。

この話から、二人が争っている間に、ほかの人が苦勞せずにとくをすることを、「漁夫の利」と言うようになりました。

1 話をしに来たのは、どこの国の使いですか。

えん
の国

2 貝としぎが、両方ともつかまってしまったのは、どうしてですか。

どちらもゆずらずに争っている間に、漁師が通りかかったから。

3 使いの話の、しぎと貝は、何をたえていますか。

ア 趙と燕

イ 秦と燕

ウ 王様と使い

4 趙の王様が、燕をせめるのをやめたのは、どうしてですか。

争えば両方の国がつかれはて、秦に両方を取られてしまうと思ったから。

5 二人が争う間に、ほかの人がとくをすることを何といいますか。

「漁夫の利」